

2023年3月 (No.405)

主な内容とページ

記録更新続出の日本半導体	1
2022年、日本は世界と異なる様相	2
輸出 15年ぶり最高更新	2
輸入 前年比4割増の驚異的な伸び	2
消費は3割増—日本向けが最高更新	3
国内の電子機器生産は落ち込み	4
大きく乖離、日本向け半導体消費と日系電子機器生産	5
「コロナ後」の新時代(SRL だより)	10

記録更新続出の日本半導体

わが国半導体市場は2022年に眠りからさめたように活発な動きを取り戻した。

1. わが国半導体輸出および日本向け半導体出荷は15年ぶりに過去最高を更新。半導体輸入は2年連続で最高を更新、記録ラッシュがみられた。
2. 半導体輸入は前年比4割、日本向け出荷は同3割増と急伸。円安や品不足に起因した値上げが要因とみられる異常ともいえる伸びを支えた。
3. ただし、国内の電子機器生産は前年割れ、半導体の国内生産も一桁の伸びにとどまっており、分野毎の差は顕著。品不足等、不均衡の弊害が懸念される。

「コロナ後」の新時代

新型コロナウイルスの感染は、収まりつつあり、この3月でわが国も通常の活動に復帰がみられるようになった。ここに至るまで3年間、大きく揺さぶられ、この1年はロシアのウクライナ侵攻も重なり、混乱は増幅、厳しい状況に置かれた。侵攻とコロナは、結び付いているのか、恐らくつながる面があるのではないかと。

コロナ後というのは早すぎるかもしれないが、惨禍を経て変わるもの、変わらないものあるとしても新たな時代に入る。身近な例では、キャッシュレス決済が普及、在宅勤務も一般化した。半導体は、特需に見舞われ経済安保の対象として内外で国家補助が本格化、新たな時代を迎えている。

変化は、これで終わり、それとも始まりか。3年前の本誌のこの欄はウイルス危機で最悪期、その後の急回復を想定したが、ここまでの変化は見通せなかった。実際に起こったことは、激烈であり、衝撃を与えた。変化は、これで終わりではないのかもしれない。激変であっても進歩を期待したい。

(大竹 修)

本誌の内容一覧、索引は、SRL ホームページをご利用ください。

<http://www.semiconresearch.co.jp/>

この資料の複写、複製その他電子的な方法等によるいかなる形での複写利用をお断りします。この資料は公開されている文書および、社会的に信用ある企業、団体等の責任者によって公開された情報を SRL の解釈と分析で表現したものです。

2023 年 著作権所有 株式会社 SRL

SRL Monthly Report

2023 年 3 月 (毎月 1 回発行) 第 34 巻 3 号 (通巻 405 号)

発行元: 株式会社 SRL

〒187-0011 東京都小平市鈴木町 2-865-67

TEL 042-439-5317 FAX 042-439-5023

編集・発行人/大竹 修

© (株)SRL 2023

SRL Monthly Report

March 2023, No.405

Semicon Research Ltd.

2-865-67 Suzuki-Cho, Kodaira -City, Tokyo 187-0011 Japan

Publisher/Editor Osamu Ohtake

購読料金 1 年分 (12 号) 98,000 円 (税別) 107,800 円 (税込み)